

はやし みさ  
学生実習支援センター 助教 林 美沙

『立て直す力』

上田紀行

中公新書ラクト (2019年)

2024年2月23・24日第29回FDフォーラム「DX・AI時代の高等教育のゆくえ」にて、今回紹介したい本の著者である上田紀行先生のシンポジウムの講演を拝聴しました。その講演中に様々なご著書のお話をされており、とても本の内容が気になりました。そのため、会場にてお話に出てきた著書を購入できるとのことだったので、タイトルに心惹かれた「立て直す力」を購入し読んでみることにしました。



この本を読むまでは、「宗教ってなんだ?」「よく分からんけど、ハマったら怖いかもしれん」という気持ちでした。「立て直す力」は上田先生が体験された宗教に関することなどについてまとめられている本です。様々な宗教やお祭りのことについて書いてあります。宗教によって人生や生きる方向などを見つける事ができるというようなことが紹介されています。この本を読み、とても納得し共感する部分がありました。生きていく上での支えを増やすことが大事だという点です。確かに支えが1つであれば、それが折れてしまっただけでは立ち直れません。しかし、多くの支えがあれば1つ壊れただけでは倒れることはありません。そのため、支えの1つに「宗教」というものがあったらいいのかもしれないとこの本を読み思いました。

「立て直す力」の中に、「人間の弱い部分に着目して欲しい」という文があり、「弱い部分を知っている人ほど慈悲の気持ちも強いでしょう」とありました。私はこの部分にとっても許された気持ちになりました。

失敗してもそこからやり直したらいいと思わせてくれる本だと思いますので、色々悩まれている人、日々に不安感を感じている人は一度読んでみてはいかがでしょうか。

はやし たかし  
事務局 学生課 林 貴志

『自転しながら公転する』

山本文緒

新潮社 (2020年)

普段は小説をほとんど読まないのですが、たまたま妻の紹介で読んだ本が思いのほか面白かったので、この場を借りて紹介します。

主人公の都は高校卒業後、東京のアパレルショップで正社員として働き始めます。やりがいを持って働いていたものの、職場の人間関係でトラブルがあり、母が体調を崩したことをきっかけに、実家近くのアウトレットに入るアパレルショップで契約社員として働くことになるのですが、



この小説では、職場の人間関係やセクハラ、恋愛と結婚、親の介護といった身近な問題に直面し、悩み葛藤する都の内面を鋭く描いています。「恋愛に夢中になり、母の世話を疎かにしてしまうことに自己嫌悪」したり、「職場でセクハラを受けたときにフォローしてくれた友達の夫を妬ん」だりと、都の生々しい感情がリアリティを持って描かれているため、都に感情移入し、没頭して読み進めてしまいました。

ちなみに、都が思い悩んだとき、周りにはいる母や友人、上司が都を支えてくれるのですが、そのほとんどが女性で、男性は基本役立たずです。父は昭和特有のモラハラの気質があったり、彼氏は肝心なことを話してくれなかったりと、男の私としては耳が痛い部分です。たまにはこのような小説を読んで、人情の機微を学ばなければと感じた次第です。

何はともあれ、エピローグにはどんでん返しも用意されており、読後には爽やかな余韻が残る素敵な作品です。都のように悩んでいる方も、私のようにボーと生きている方も、是非手に取ってみてください。